

# 東海新報

平成29年(2017年)

8月19日 土曜日



## 日々の活動で自殺予防

### 本年度4回目 保健医療福祉未来図会議

陸前高田市

陸前高田市の保健・医療・福祉関係者が一堂に会する市保健医療福祉未来図会議は18日、高田町の市役所で開かれた。本年度4回目の会議には、市民を含む36人が参加。心の健康づくりや自殺対策となつていく日々の活動について改めて考え、自殺予防を推進するための工夫、仕掛けについて意見を交わした。

同会議は、市民誰もが人の輪の中に入り、自然と語り合う雰囲気づくりを自ら指す「はまっけ」を、かたづけらいいん運動(略称・はまかた)を推進し、自殺対策になると改めて気がついた活動について、はまかた。陸前高田市役所(電子新聞に別写真あり)

市が掲げる「フーマライゼーション」という言葉のいらないまちづくりの実現を目指そうと実施。震災後から数えると、今回で通算80回目の開催となった。今回のテーマは「だれもができる住みやすいまちづくり」(自殺予防対策)。

市被災絆づくりアドバイザーの岩室伸也氏が、「未来図会議が目指してきたこと」について講話したあと、県精神保健福祉センター・県自殺対策推進センター・県保健師兼精神保健福祉相談員の菊田誠子氏が、国の自殺総合対策大綱と県の役割について説明した。

このうち菊田氏は、▽自殺総合対策の基本理念▽自殺の現状と自殺総合対策における基本認識—といった大綱の概要を紹介したうえで、同対策における当面の重点施策を資料に沿って解説。旧大綱からの主な変更箇所として、▽地域レベルの実践的な取組への支援を強化する▽社会全体の自

殺リスクを低下させる—などが重点施策に加えられたことを伝えた。

このあと、岩室氏が自殺予防と「はまかた」とのかかわりについて言及。はまかたによって形成される絆(きずな)ほだし)がある居場所。が自殺の1次予防になると訴えた。

岡氏の講話を踏まえ、参加者たちは最後に「はまかた(自殺対策)につながる工夫、仕掛けを考える」をテーマに5グループに分かれて、はまかた。フアシリターとして参加した市保健師とともに、日々の活動の中で自殺対策になつていくと改めて気がついた

もの、対策をさらに推進するための工夫・仕掛け、今の活動を今後さらに意識して進めるためのアイデアなどを活発に話し合った。「自殺は経験するまでひとこと、経験したら誰にも言わないもの。そして自殺しそうな人を早期発見することはできない。自分たちは、はまかたする中で、自殺を思い付きもしなくなるような社会を目指している」と岩室氏。陸前高田市において高齢者の自殺件数が減少傾向にあることを「いろんな人がはまかたし続けてきた結果」と喜び、「今後も継続して発展させていけたら」と話していた。

## 日々の活動で自殺予防、保健医療福祉未来図会議／陸前高田市



陸前高田市の保健・医療・福祉関係者らが一堂に会する市保健医療福祉未来図会議は 18 日、高田町の市役所で開かれた。本年度 4 回目の会議には、市民を含む 36 人が参加。心の健康づくりや自殺対策となっている日々の活動について改めて考え、自殺予防を推進するための工夫、仕掛けについて意見を交わした。

同会議は、市民誰もが人の輪の中に入り、自然と語り合う雰囲気づくりを目指す「はまっけてらいん、かだっけてらいん運動」(略称・はまかだ)を推進し、市が掲げる「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」の実現を目指そうと実施。震災後から数えると、今回で通算 80 回目の開催となった。

今回のテーマは「だれもができる住みやすいまちづくり～自殺予防対策～」。

市被災絆づくりアドバイザーの岩室紳也氏が、「未来図会議が目指してきたこと」について講話したあと、県精神保健福祉センター・県自殺対策推進センター上席保健師兼精神保健福祉相談員の菊田誠子氏が、国の自殺総合対策大綱と県の役割について説明した。

このうち菊田氏は、▽自殺総合対策の基本理念▽自殺の現状と自殺総合対策における基本認識——といった大綱の概要を紹介したうえで、同対策における当面の重点施策を資料に沿って解説。旧大綱からの主な変更箇所として、▽地域レベルの実践的な取組への支援を強化する▽社会全体の自殺リスクを低下させる——などが重点施策に加えられたことを伝えた。

このあと、岩室氏が自殺予防と「はまかだ」とのかかわりについて言及。はまかだによって形成される「絆(きずな+ほだし)がある居場所、が自殺の 1 次予防になると訴えた。

両氏の講話を踏まえ、参加者たちは最後に「はまかだ(自殺対策)につながる工夫、仕掛けを考える」をテーマに 5 グループに分かれて「はまかだ」。ファシリテーターとして参加した市保健師とともに、日々の活動の中で自殺対策になっていると改めて気がついたもの、対策をさらに推進するための工夫・仕掛け、今の活動を今後さらに意識して進めるためのアイデアなどを活発に話し合った。

「自殺は経験するまでひとごとで、経験したら誰にも言わないもの。そして自殺しそうな人を早期発見することはできない。自分たちは、はまかだする中で、自殺を思い付きもしなくなるような社会を目指している」と岩室氏。陸前高田市において高齢者の自殺件数が減少傾向にあることを「いろんな人がはまかだし続けてきた結果」と喜び、「今後も継続して発展させていけたら」と話していた。